運動部活動への外部指導者関与の
促進および阻害要因を解明するための質的研究

スポーツ医科学研究領域
5010A002-3　青柳 健隆　　研究指導教員：岡 浩一朗　准教授

第 1 部
序論

背景：我が国では、青少年が運動やスポーツを実施する場として、運動部活動が発達してきた。これまでの研究によって、運動部活動は青少年の心身の発達にとって多くの意義があることが明らかになっている。しかし、運動部活動運営上の問題点として、専門的な技術指導のできない教員が顧問になっている場合があること、顧問への精神的・肉体的・経済的負担が大きいこと、顧問の人事異動にともない部活動運営の継続が難しくなることなどが報告されている。そこで、それらの問題を解消するために外部指導者の活用が注目されている。しかしながら、現在のところ外部指導者の活用状況は十分とは言い難い。さらに、外部指導者を活用することによって起きた不祥事などの問題も報告されており、外部指導者の質を保証することも重要な課題である。**目的**：外部指導者の活用を推進するため、外部指導者活用の促進要因や阻害要因、外部指導者に求める資質を定量的に解明しようと試みた質問紙調査は散見される。しかし、それぞれの調査によって質問項目も異なり、質問項目を設定する過程には疑問が残る。そこで本研究では、質的な研究手法を用い、外部指導者が運動部活動に関与することの促進要因、阻害要因、また、外部指導者に求められる資質を明らかにすることを目的とした。

第 2 部
研究 1：外部指導者の部活動関与に影響を与える要因に関する質的研究

目的：研究 1 では、外部指導者が運動部活動に関与することの促進要因および阻害要因を明らかにすることを目的とした。**方法**：外部指導者 25 名を対象として、1 対 1 の半構造化インタビューを実施した。録音して得られたデータは KJ 法を用いて分析した。**結果**：促進要因として、楽しさなどの【ポジティブな感情】、謝礼金などの【制度】、学校や顧問の協力などの【サポート】、部員の意欲などの【部活動の雰囲気】、学校までの近さなどの【環境】、指導経験を積めることなどの【外部指導者の成長】、人脈が得られることなどの【人脈形成】という 7 カテゴリが明らかとなった。阻害要因としては、心身の疲労などの【ネガティブな感情】、謝礼金が少ないことなどの【制度】、学校や顧問の理解がないことなどの【サポート】、部員の意欲が低いことなどの【部活動の雰囲気】、施設や設備の不備などの【環境】、休日がなくなることなどの【負担】という 6 カテゴリが分類された。**考察**：研究 1 の結果からは、謝礼金の増額という推進策以外にも、外部指導者のやりがいを尊重した部活動運営や人脈獲得の場の提供、教員採用試験や就職に有利な仕組みの構築、指導時間への配慮や研修会の充実など、多様な外部指導者活用推進策の可能性が示唆された。制度による制限によって

外部指導者の活用が阻害されてしまっている場合もあり、指導回数や採用人数に関しては緩和していく必要があるが、活動範囲などの権限については慎重な議論が求められる。

第 3 部

研究 2：教員の外部指導者活用に影響を与える要因に関する質的研究

目的：研究 2 では、教員が外部指導者を活用することの促進要因および阻害要因、教員が外部指導者に求める資質を明らかにすることを目的とした。**方法**：教員 22 名を対象として、1 対 1 の半構造化インタビューを実施した。録音して得られたデータは KJ 法を用いて分析した。**結果**：促進要因として、部員の成長などの【部活動への恩恵】、顧問の負担軽減などの【教員への恩恵】、謝礼金などの【制度】、学校の理解などの【サポート】という 4 カテゴリが類型化された。阻害要因としては、教育面の軽視などの【部活動への負担】、顧問の負担増加などの【教員への負担】、謝礼金の不足などの【制度】、周囲からの反対などの【サポート】という 4 カテゴリが明らかになった。また、求める資質として、性格などの【人間性】、資格や経験などの【能力】、意思疎通ができることなどの【協調性】、年齢や職業などの【属性】、知人であることなどの【信用】という 5 カテゴリがまとめられた。**考察**：研究 2 の結果より、外部指導者を活用することは部員の人間的な成長に良い影響があり、教員の異動による運動部活動の衰退などの悪影響を減らすことができると考えられる。外部指導者と顧問の立場が逆転してしまうことによる悪影響や、運動部活動が顧問にとっても生徒理解や顧問自らの成長のために有益なものであるということからは、外部指導者と顧問の役割を明確にし、顧問が主体となって外部指導者との協同的な関係を築いていくことの重要性が示唆された。また、現行の制度では派遣される外部指導者の情報が不十分であることや、外部指導者の選定にあたっては信用できる人物であることが大切なことから、派遣される外部指導者に関する情報の透明性を高めることが求められている。同時に、制度の認知度を高める工夫も必要であることが明らかになった。定期的に専門競技について指導してくれる一般的な外部指導者の他にも、サポートに特化した専門家や、短期的に指導してくれるレベルの高い指導者の活用推進方策も合わせて検討していく必要がある。

第 4 部

総合論議

総合考察：外部指導者および教員の両者において肯定的、または否定的にはたらくと思われるカテゴリが見出されたことからは、効果的な推進策の検討が期待できる。本研究で明らかになった促進要因を充実させ、阻害要因を取り除き、求める資質を備えた外部指導者を選定することで、質の高い外部指導者の活用を推進することができると考えられる。しかし、それぞれの調査内で対立するカテゴリや外部指導者と教員の意見の間での対立も見受けられ、推進度合の適切なバランスや、対象者の属性による各要因の影響の違いについての検討が必要な要因もあった。外部指導者を活用するにあたっては、一人一役など外部指導者と顧問の役割を明確にすること、また、顧問が主体となって外部指導者との協同的な関係を築いていくことが必要であると言える。